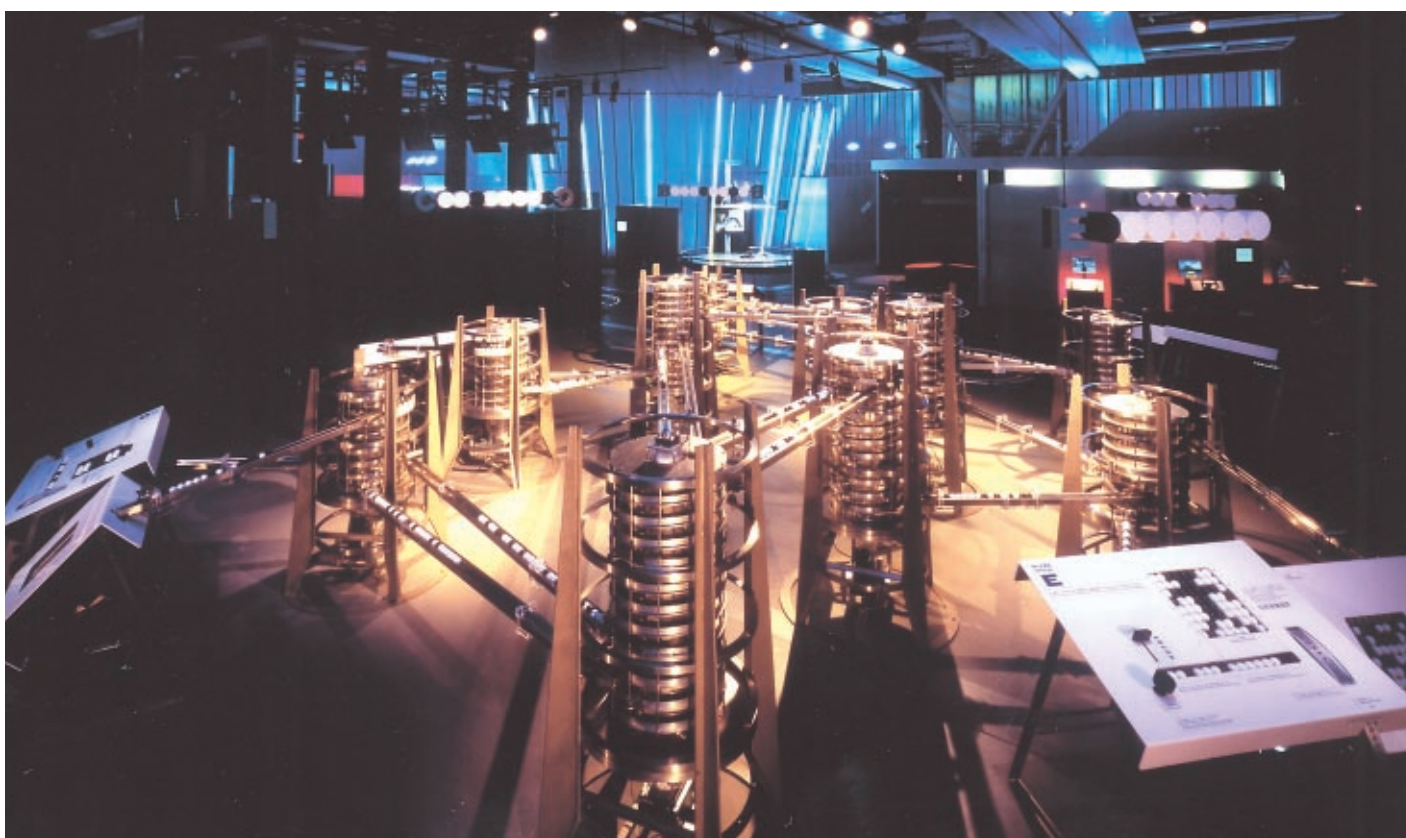


みらいCAN

ニュースレター

miraikan newsletter
2001 October No.003



3F「情報科学技術と社会」に展示されている「インターネット物理モデル」。情報がネットワークの中をどのように進んで、相手に届いているのか。情報伝達のメカニズムがボールを転がすことでシンプルにモデル化され、体験的にネットワークの仕組みが理解できるようになっている。16個の白と黒のボールを並べてアドレスとメッセージを作り、そのデータを相手に送りだすと、レールの上をボールが転がっていき、ネットワークやルーティングの仕組みを楽しみながら知ることができる。



Contents 2001 October No.3

- 01 展示紹介「インターネット物理モデル」
- Contents
- 02 8月開催のイベント報告
- 04 ボランティア活動 / ボランティア紹介
- 05 スタッフ紹介
- 06 10・11月のイベント

「ダ・ヴィンチとルネサンスの発明家たち」展より

第3号

8月開催のイベント報告

展示の前で研究者に会おう 金澤一郎先生 - 新しい出会いの場としての日本科学未来館 -

8月4日(土)の14時00分、5階の「生命の科学と人間」展示ゾーンに集まった35名ほどの登録・一般参加者の前に、東京大学医学部附属病院神経内科金澤一郎先生が姿を見せました。先生の演題は、「ダイナミックな脳を知る」というもので、展示に直接関わった先生から、じかに説明をうけるという絶好の機会です。今回は脳という難しいテーマではありましたが、5階の展示ゾーンを巡りながら、我々の体の中にある身近な物、というタッチでわかりやすく、楽しく説明していただきました。また、参加者の真剣な眼差しと、終了後も多くの方が残って先生を質問攻めにしたのが印象的でした。参加者アンケートには、このようなセミナーを毎週やってほしい、ただ展示を見た時より理解できました、直接研究者が展示を説明するという企画は素晴らしい、人数が多すぎる印象、時間がもう少しあってもいいなどの意見が寄せられました。(湯川博貴)



後日、金澤先生から次の感想が届きました。
「研究者は「語部(かたりべ)」でないといけないと考えています。皆さんはよい「聞き部(ききべ)」でした。それはうなずいたり、笑ったり、よく反応してくださったという意味です。もし私に希望をいわせていただけならばせめて一回に10名位にして、もう少し時間をとり、皆さんには「問い部(といべ)」になってほしいと思います。つまり質問してほしいということです。これを何度もやらせてほしいと思いました」

展示の前で研究者に会おう 中島洋先生

8月25日(土)の14時00分～15時00分、第2回目の「展示の前で研究者に会おう」が、3階展示ゾーンで開催されました。今回は、JR東海技術本部中島洋先生による「超伝導・磁石・浮上に触れる」というテーマで、総参加者数35名が待ち受けていました。中島先生からは、内に秘めた情熱、特に30年以上にわたってリニアモーターカーの研究をしている、という思いがひしひしと伝わってきました。超伝導という難解なテーマにもかかわらず小学生の参加も多く、真剣にメモを取っている姿が印象的でした。アンケートには、研究者の生の声を聞くことにより、苦労や成功した時の気持ちも伝わってきた、磁石が浮いたシーンが印象的、わかりやすい実験の説明の後のリニアモーターカーの説明は、より効果的、リニアモーターカーを真空中で走らせたら高性能になる、というお話が印象的、実験はわかりやすかったが、よく見えないなどの感想が寄せられていました。(湯川博貴)



中島 洋先生

究している天文学者の生の回答に参加者は大変満足している様子でした。(永井智哉)



国立天文台ハワイ観測所とのTV会議

「すばる望遠鏡の研究者と話そう」 日本科学未来館 - 国立天文台ハワイ観測所TV会議 (8月25日(土)10時30分 - 11時30分)

このイベントは国立天文台ハワイ観測所とTV会議で結び、すばる望遠鏡の研究者と直接話すことができる催しで月に1回ほど行われています。毎回、違った研究者が出演しており、様々なテーマで天文学のお話を聞くことができます。

今回は、まず、ハワイ観測所の布施哲治先生から、すばる望遠鏡の場所や望遠鏡の外観など一般的な内容について、ボードや模型を使って説明していただきました。その後、望遠鏡責任者の臼田知史先生が望遠鏡の性能と精度の向上について、絵や例をまじえながら丁寧にわかりやすい説明をしてくださいました。

会場からは、空気が薄いマウナケア山頂での動き方やハワイでの食事のこと、今後どんな研究テーマ・天体をねらっているかなどについて多くの質問が出され、すばる望遠鏡を使って研

夏休み特別企画「毛利館長と話そう」

夏休み中のイベントのトリとして、8月27日(月)15時30分～16時00分、「毛利館長自身が直接来館者と触れ合う」企画を行いました。毛利館長自身に、来館者への感謝の気持ちと、シンボル展示および未来館への想いを、質疑応答を交えながら語ってもらうというものです。当日の館内放送で毛利館長の出現を知った来館者250人が1階シンボルゾーンに集まりました。館長を紹介すると、拍手の中、毛利館長が登場しました。館長は、まずシンボル展示GEO-COSMOSの説明とこれに込めた想いを語り、その後質問への応答に入りました。子どもたちからは、「地球はまん丸じゃないんじゃないですか」とか、「宇宙で太陽はどんなふうに見えるんですか」など、するどい質問がありました。開かれた日本科学未来館を目指すという方針に沿って、館長と来館者との出会いの場は、今後も定期的実施していく予定です。(湯川博貴)



夏休み特別企画「毛利館長と話そう」

未来を拓く宇宙への挑戦！ ～H-Aロケット打上げカウントダウン～

8月15日(水)から9月3日(月)の期間、5階サイエンスギャラリーにおいて、H-Aロケット打上げカウントダウン展示会(主催:宇宙開発事業団)が開催されました。H-Aロケット第1段メインエンジン「LE-7A」の実物を中心に、H-Aロケットの全貌が紹介されました。ミニシアターでのビデオ上映や打上げシミュレーションコーナーでの体験ができ、コミュニケーションコーナーでは自由研究のために解説員に熱心に質問をする子供達の姿も見られました。

なお、第1段メインエンジン「LE-7A」は7月14日(土)より半年間の予定で展示中です。

(清水健次)



H-Aロケット第1段メインエンジン「LE-7A」

H-Aロケット打ち上げ中継

1999年11月のH-Aロケット8号機の打ち上げ失敗以降、宇宙開発事業団は新たな輸送手段「H-Aロケット」の開発に全力を注いできました。

それから2年、その最終成果が問われるH-Aロケット試験器1号機の打ち上げが8月29日(水)に行われました。日本科学未来館ではこの模様を種子島宇宙センターからのライブ中継で楽しみました。毛利館長と一緒に多くの来館者の皆さんが見守る中、無事打ち上げに成功し、館内には大きな拍手がわき起こりました。(清水健次)



打ち上げを見守る毛利館長と来館者の皆さん

オープン記念第一回特別展 「ダ・ヴィンチとルネサンスの発明家たち」展 (7月10日(火)～9月2日(日))

この特別展では、ルネサンス発祥の地フィレンツェにそびえるブルネレスキ設計のサンタ・マリア・デル・フィオーレ大聖堂(丸屋根)や、ダ・ヴィンチが考案した飛行機械や工学機械の模型、歴史上最初の人体解剖図の再現、さらには、ダ・ヴィンチが登場する背景となったシエナ地方のエンジニアたちの業績などが展示されました。現代にいたる最先端工学の基礎となったこれらのルネサンスの発明や発想を、ユニークな模型、資料、マルチメディアなどを使って分かりやすく紹介し、子供から大人まで大勢のお客様に楽しんでいただきました。(清水健次)



「ダ・ヴィンチとルネサンスの発明家たち」展

- 1 未来館特別企画 「中秋の名月・未来館でお月見!」
10月1日(月)10:00~20:00
- 2 展示の前で研究者に会おう 東京大学 北澤宏一先生
「超伝導の超能力」 10月6日(土)14:00~15:00
- 3 宇宙の日作文絵画コンテスト表彰式
10月8日(月・祝) 入選作品を未来館で展示。
- 4 フォ・ラム「未来にたくす夢~オ・ロラの美しさと秘密~」
国際北極圏研究センター アラスカ大学 赤祖父俊一先生
10月13日(土)15:00~16:30
- 5 展示の前で研究者に会おう 宇宙開発事業団 菊山紀彦先生
「宇宙の暮らしは面白い」
10月27日(土)14:00~15:00
- 6 すばる望遠鏡の研究者と話そう
国立天文台ハワイ観測所 布施哲治先生
10月28日(日)14:00~15:00
- 7 企画展「地球の過去・現在・未来」
10月31日(水)~11月19日(月)
- 8 宇宙へ夢を抱いたモノ作り「世界初のプラネタリウムの話」
ミノルタプラネタリウム(株) 技術部開発課長 高橋 保氏
11月3日(土・祝)
- 9 しし座流星群ハイビジョン映像流星計測観測会
11月3日(土・祝)11:00~12:30
- 10 展示の前で研究者に会おう 東京大学 藤田博之先生
「マイクロマシンの世界」
11月17日(土)14:00~15:00
- 11 しし座流星群観測ネットワーク-ク連絡会プレスセンター-
11月18日(日)夕方~19日(月)未明
- 12 しし座流星群インタ-ネット放送
11月18日(日)23:00~19日(月)5:00
- 13 ボランティア展示イベント
「遺伝子組み換え食品について考える」
11月21日(水)~12月10日(月)
- 14 戦略的基礎研究推進事業研究領域「脳を知る」シンポジウム
11月21日(水)9:30~18:00
22日(木)9:30~17:10
- 15 「ものづくり」体験教室
11月23日(金・祝)13:00~16:00
- 16 第1回宇宙材料フォ-ラム講演会「ナノテク・材料と宇宙」
11月26日(月)13:30~17:30
- 17 原子物理学の新しい流れ
11月28日(水)10:20~17:00

「ロボット・ミーム」展

ロボットは文化の遺伝子を運ぶか?

ロボットを21世紀のメディアとしてとらえ、人と知能機械の新しいインターフェイス(ロボットデザイン)を提案します。

日時 12月1日(土)~2月11日(月・祝)
場所 日本科学未来館 1階催事ゾーン
参加費 入館料のみ(大人500円/18歳以下200円)

新年は1月2日(水)より開館

年末年始休館日=2001年12月28日(金)~2002年1月1日(火)

みらいCANニュースレター

第3号 2001年10月発行

発行人/毛利 衛

発行/科学技術振興事業団 日本科学未来館
〒135-0064 東京都江東区青海2丁目41番地
TEL:03-3570-9151 FAX:03-3570-9150

企画編集/日本科学未来館広報グループ 編集デザイン/有限会社WORDS/北陽工房 印刷/日本印刷株式会社

ホームページURL <http://www.miraikan.jst.go.jp/>

10月		実験工房
1 Mon.	1 未来館特別企画「中秋の名月・未来館でお月見!」	
2 Tue.	休館日	
3 Wed.		
4 Thu.		超
5 Fri.		レ
6 Sat.	インターネット電子顕微鏡 2 展示の前で研究者に会おう! 北澤宏一先生	A
7 Sun.	インターネット電子顕微鏡	B
8 Mon.	3 「宇宙の日」作文絵画コンテスト表彰式	超 B
9 Tue.	休館日	
10 Wed.		
11 Thu.		超
12 Fri.		
13 Sat.	インターネット電子顕微鏡 4 フォーラム「未来にたくす夢」 赤祖父俊一先生	レ B
14 Sun.	インターネット電子顕微鏡	超 A
15 Mon.		
16 Tue.	休館日	
17 Wed.		
18 Thu.		超
19 Fri.		
20 Sat.	インターネット電子顕微鏡	A
21 Sun.	インターネット電子顕微鏡	超 レ B
22 Mon.		
23 Tue.	休館日	
24 Wed.		
25 Thu.		超
26 Fri.		レ
27 Sat.	インターネット電子顕微鏡 5 展示の前で研究者に会おう! 菊山紀彦先生	B
28 Sun.	インターネット電子顕微鏡 6 すばる望遠鏡の研究者と話そう 布施哲治先生	超 A
29 Mon.		
30 Tue.	休館日	
31 Wed.	7 企画展「地球の過去・現在・未来」	

11月		実験工房
1 Thu.		7
2 Fri.		レ
3 Sat.	インターネット電子顕微鏡 8 宇宙へ夢を抱いたモノ作り 高橋 保氏 9 しし座流星群ハイビジョン映像流星計測観測会	超 A
4 Sun.	インターネット電子顕微鏡	超 B
5 Mon.		
6 Tue.	休館日	
7 Wed.		
8 Thu.		
9 Fri.		
10 Sat.	インターネット電子顕微鏡	超 レ B
11 Sun.	インターネット電子顕微鏡	超 A
12 Mon.		
13 Tue.	休館日	
14 Wed.		レ
15 Thu.		
16 Fri.		
17 Sat.	インターネット電子顕微鏡 10 展示の前で研究者に会おう! 藤田博之先生	超 A
18 Sun.	インターネット電子顕微鏡 11 しし座流星群観測ネットワーク-ク連絡会プレスセンター- 12 しし座流星群インタ-ネット放送	超 B
19 Mon.		
20 Tue.	休館日	
21 Wed.	13 ボランティア展示イベント「遺伝子組み換え食品について考える」 14 「脳を知る」シンポジウム	13
22 Thu.	14 「脳を知る」シンポジウム	
23 Fri.	15 「ものづくり」体験教室	超 B
24 Sat.	インターネット電子顕微鏡	超 B
25 Sun.	インターネット電子顕微鏡	超 A
26 Mon.	16 第1回宇宙材料フォ-ラム講演会	
27 Tue.	休館日	
28 Wed.	17 原子物理学の新しい流れ	
29 Thu.		
30 Fri.		レ

実験工房 超:超伝導 レ:レーザー A:ロボットA B:ロボットB